

14

水野谷 武志ゼミ

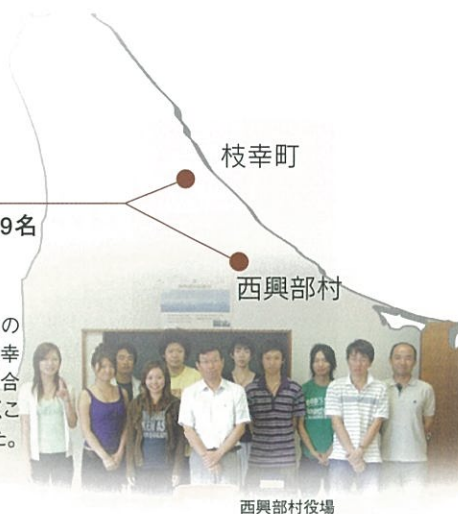
Takeshi Mizunoya Seminar



市町村合併

- 研修地:西興部村、枝幸町
- 参加学生9名
- 研修期間:06年8月7日~10日
- 地域経済学科助教授:水野谷 武志

水野谷ゼミナールは市町村合併問題を今年の研究テーマとしました。そこで、合併せずに自立の道を選んだ西興部村と、この村から比較的近隣で最近合併した地域の1つである枝幸町(旧枝幸町と旧歌登町の合併自治体)の行政担当者を上記日程で訪ね、聞き取り調査を通して市町村合併問題について学びました。現地を肌で感じ、行政担当者が真摯に訴えかける様々な問題を聞くことにより、市町村合併について対照的な決断を下した2つの自治体を比較検討することができました。



西興部村役場

学生報告



地域経済学科2年 伊藤 さやか
(札幌旭丘高校出身)

合併か自立かという選択

私たち水野谷ゼミでは、北海道における市町村合併の現状の調査を行うため、非合併自治体である西興部村と合併自治体である枝幸町を訪問しました。西興部村は、平成15年に合併をせずに自立の道を選択した村であり、枝幸町は平成18年3月20日に旧枝幸町と旧歌登町が合併してできた町で、訪問した当時は合併して半年も経過していないという状況でした。

西興部村では、太田助役の講演を聞きました。講演の主な内容は合併しなかった理由であり、想像以上に厳しい現状であることを知りました。西興部村は人口が少なく、現在では北海道で2番目に人口が少ない村です。この人口の少なさが自立の道を選んだ西興部村の将来を不安にさせる原因になっているようでした。

合併をした枝幸町の調査では、枝幸町役場の深井さん、歌登総合支所(旧歌登町役場)の合田さんをそれぞれ訪ね、質疑応答を行いました。2人のお話から、お互いが対等な立場で合併の議論が行われたこと、2町の連携は合併前も合併後もうまく取れていることがわかり、枝幸町の合併は良い方向に進んでいると感じました。

合併か自立かどちらが良いとは言いきれませんが、住民一人一人が市町村合併についてよく理解し、時間をかけて考え、話し合うことが大切だと感じました。地域研修で西興部村と枝幸町を訪問し、現地の方々の生の声を聞くことで、市町村合併や地域について真剣に考える良い機会となりました。



歌登総合支所



枝幸町役場



地域経済学科4年 西澤 慶祐
(北海道大麻高校出身)



すぐに結果がでるわけではない

私たち水野谷ゼミは今回の地域研修で、「市町村合併」について、2006年8月7日~10日の3泊4日の行程で西興部村と枝幸町へ行ってきました。

西興部村は非合併の事例として、村の助役である太田さんの公演を拝聴し、村立の施設である3大夢シリーズの「木夢(コム)」「花夢(カム)」「IT夢(アトム)」と、ギター工場を見学させていただきました。研修中の3泊は全部西興部村に泊まり、3日目の夜には役場の職員の方々と野外でバーベキューをして、談話しながらわいわい村の状況などを聞くことができました。

枝幸町は、2006年3月に枝幸町と歌登町が合併してできた新しい町であり、枝幸町役場と旧歌登町役場でそれぞれ合併に1番貢献されたお二方に質疑応答させていただきました。私は昔この枝幸町に住んでいた時があり、あまり昔と変わってなくて懐かしく感じました。

市町村合併の是非はまだわかりません。と言うのも、すぐに結果の出るものではないからです。市町村合併を期に、するにしてもしないにしても、これまでの財政の見直しや今後の見通しを考える、という事ができたのだからマイナスな事ではないのだと思いました。市町村合併は地方交付税などで国の財政にも深く関係していて、市町村合併に関係ない都市に住んでいる人たちにも関係する事です。全ての国民にもっと関心を持って欲しいと思います。